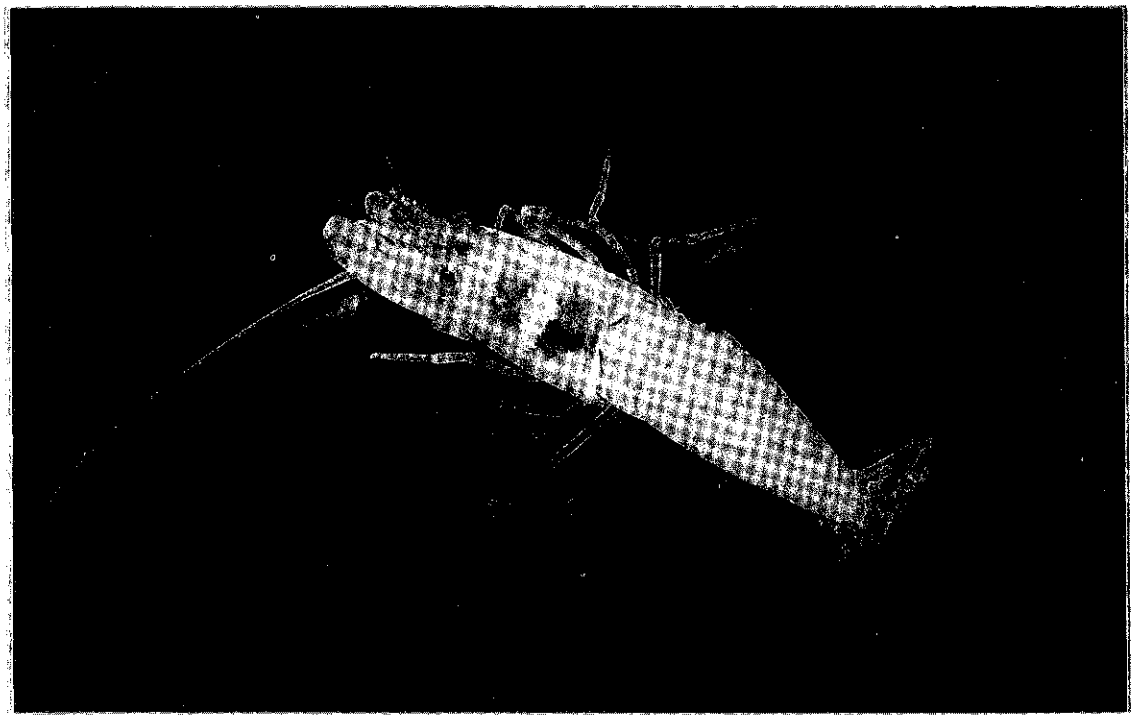
ISSN 1341-6928

串本海中公園 マリンパビリオン

1998. 3. Vol. 27, No. 3



クシモトヨコシマムラサキエビ（仮称）
***Athanas* sp.**

体長10mmに満たない小型種で、内湾潮下帯のサンゴ岩間隙に生息する。腹部背面には暗色の横帯模様があり、甲中央背面には白色の斑紋がある。額角は長く第1触角の柄部末縁付近にまで達し、甲前縁には眼球を越える長い眼側棘とその下部に眼下棘を持つ。本種は体色・形態ともにアシボソヨコシマムラサキエビ（本紙 Vo. 23, No. 5）に似るが、本種の雄の第1胸脚腕節は長節よりも著しく短いのに対し後者のそれは長節とほぼ同長であることで区別される。

本種はこれまでのところ串本町有田湾からしか採集されていない。写真の個体は有田湾水深3mのサンゴ岩間隙より得られた体長約8mmの雄で、腹部の一部が破損している。テッポウエビ科。

K. N.

串本海中公園センター

海中展望塔に集まる魚　(21)
1997年1月～12月

福田 照雄

1978年から開始した海中展望塔での魚類観察も本年（1997年）で20年に達した。1回の観察は15～30分、ノート片手に朝の散歩気分で気楽にやっていたので、これまで続けられたのだと思う。苦節20年といった特別な感慨もなく、21年目の観察を続けている。この20年間、大型台風の来襲、異常寒波、黒潮の離岸、接岸などの大きな環境変化が見られたが、塔に集まる魚たちの基本的な構成には目立った変化は少なく、意外と平和な社会が続いている。

本年は105日の観察で、前年より2種少ない128種の魚類が記録された。黒潮は前年に引き続き接岸傾向で、特に1月から3月にかけては例年より1～2℃前後高く、最低水温は2月24日の15.0℃であった（本誌Vol.27,No.1）。

月別の出現状況を見ると、1月の69種から次第に種数が減少し、3月には年最少の52種となり、5月には4月の55種から70種へと急激な増加が見られた。このような4月から5月の急増は1995年の46種から71種への急増以来2度目の事である。その後8月の59種へと、水温の上昇とは逆に種数の減少が見られ、9月には72種と大きな増加が見られた。そして、10月に今年最多の85種が記録された。12月は11月より水温が高めに推移したにもかかわらず、84種から69種へと大きく減少したのが注目される。

本年観察された魚種は128種で、前年との共通種は104種。前年見られ本年見られなかった魚種は26種であったが、前年の出現率が10%以上であったのはアケボノチョウチョウウオ、スズメダイ、イワサキスズメダイ、カンムリベラ、セダカギンポの5種であった。逆に、前年見られず本年見られた魚種は24種で、出現率が10%以上のものはダツ科の一種とミゾレチョウチョウウオの2種であった。また、本年は塔の初記録種（正しくは著者の塔での初観察種）がなかったが、これは20年間で初めての事であり、本年の出現状況の大きな特徴の一つでもあった。

出現率が80%以上の魚種は前年より1種少ない22種であったが、タカベ、カゴカキダイ、テンクロスジギンポの3種が本年80%以下に減少し、テンジクイサキとクマノミの2種が80%以上の魚種に加わった。これら5種以外の出現率の増減は比較的少なく、常連の魚たちにも目立った変化は見られなかった。

この他、シマアジ、クロサギ、ヤリカタギ、トノサマダイ、イシダイ、ナガサキスズメダイ、アオブダイ、ヒブダイの減少と、フエダイ、フウライチョウチョウウオ、ブチススキベラの増加が目立ったが、全般的に見ると前年との変化が少なかった年と言うことができる。

和　名	月 JFMAMJJASOND	日数
キビナゴ	2————222	10
トラウツボ	—-1111-1111	11
ワカウツボ	11111-111111	33
ウツボ	1-11111-1111	27
ゴイシウミヘビ	————1——	1
ゴンズイ	———1—-21-	4
アカエソ	—-111--111	8
ヘラヤガラ	1———1111-	12
アオヤガラ	—-1———	2
ダツ科 sp.	————221--	13
ムギイワシ	123243422135	47
トウゴロウイワシ類	55553-434555	84
ボラ	122222111222	45
カマス科 sp.	-1—1———	2
クロハタ	1————	4
ギンユゴイ	————1--	1
クロホシイシモチ	323443452334	96
オオスジイシモチ	111222212122	57
タカベ	222222322222	63
ブリ	—1————	1
カンパチ	———11——	2
マアジ？	23211—-1—3	20
シマアジ	—-221———	9
カスミアジ	————1	1
クロサギ	—-121-1-1-1	12
リュウキュウヒメジ	———1———	2
オキナヒメジ	2-1-11211222	41
オジサン	———22221-	27
メジナ	555555555555	105
クロメジナ	345444444454	105
オキナメジナ	112212111121	44
イスズミ	343343223344	100

和 名	月 JFMAMJJASOND	日数
テンジクイサキ	222232222334	92
バラフエダイ	————————1-	5
フエダイ	1—-2212222-	43
フエダイ科 sp.	————1———	1
フタスジタマガシラ	11————————	5
イトフエフキ	————111-	4
ハマフエフキ	————1———	1
カゴカキダイ	1-2123333332	72
ヤリカタギ	————12211	22
ミスジチョウチョウウオ	——————2-	6
スミツキトノサマダイ	1—-11—111-	16
トノサマダイ	-1———211-	9
トゲチョウチョウウオ	22—11-12222	50
フウライチョウチョウウオ	2-111—1-122	32
ニセフウライチョウチョウウオ	————1———	2
チョウチョウウオ	222333333333	98
ゴマチョウチョウウオ	——————2	9
ミゾレチョウチョウウオ	————121	17
シラコダイ	211111———	26
ハタタテダイ	————1———	1
オニハタタテダイ	——1———	1
サザナミヤッコ	——111-1———	5
ナメラヤッコ	——1———11	3
イシダイ	1—1211———	13
イシガキダイ	—-1111———	8
クマノミ	322222122223	93
アマミスズメダイ	1————11-	6
シコクスズメダイ	————121	10
セダカスズメダイ	222232332332	102
ソラスズメダイ	555555555555	105
メガネスズメダイ	————11-	2
ナガサキスズメダイ	——11———	7
オヤビッチャ	332223334555	96
テンジクスズメダイ	21————22	27
ロクセンスズメダイ	222211222332	79
ハクセンスズメダイ	1—————	1
イシガキスズメダイ	21———12223	49
スズメダイ科 sp.	——11———	5
タカノハダイ	212122212212	68
コブダイ	—-1————	1
ブチススキベラ	212221222221	61
カマスベラ	———1—-1—-	2
クギベラ	11—1—-1222	27
セナスジベラ	31——1—-222	32
オトメベラ	222222223222	94
ニジキベラ	343333333333	104
ヤマブキベラ	222232223223	104
コガシラベラ	222222223332	94
ササノハベラ	332232323333	104
ホンソメワケベラ	223222222233	100
カミナリベラ	332222322332	95
アカオビベラ	111-1—-11—-	12

和 名	月 JFMAMJJASOND	日数
ノドグロベラ	————11—-	2
セジロノドグロベラ	——11-1111	20
トカラベラ	————1-1-	2
イナズマベラ	————11-	4
ホンベラ	—-1-1—-111	12
ナメラベラ？	————1-11-	6
ニセモチノウオ	——————1	1
ブダイ	323322233333	101
アオブダイ	——21-1211	20
ヒブダイ	——111-111-	7
アミメブダイ？	1————————	2
ブダイ科 sp.	———11-11-	7
ツノダシ	222122-11122	53
ニザダイ	223222222222	100
テングハギ	211111111-22	43
ヒレナガハギ	————1-	1
ゴマハギ	————21-	10
ナガニザ	21—1—-22122	42
ニセカンランハギ	222122222222	72
サザナミハギ	1————————	4
アイゴ	2221211-2222	63
アミアイゴ	————1—-	1
アカハチハゼ	————1—-	1
クロユリハゼ	——2—-1—-	4
クツワハゼ？	-11111——-1-	7
ハゼ科 sp.	————111	3
ミナミギンポ	1———11111	14
テンクロスジギンポ	322221222222	77
ミノカエルウオ	21-111———1	15
カサゴ	222221112222	59
オニカサゴ	-1———1—-	2
ハナミノカサゴ	1-11111—-1-	12
カワハギ	111-1-111222	35
アミメウマヅラハギ	————1111	7
メガネウマヅラハギ	——1—1-1-	3
アオサハギ	———1——	2
ミナミハコフグ	————1—-	1
ハコフグ	232222222222	98
ウミスズメ	1-111—-1——	6
シマウミスズメ	221111111122	47
キタマクラ	332223323222	103
シマキンチャクフグ	1————————	1
ハリセンボン	—-1———11——	4
イシガキフグ	222222212222	65

表中の数字は月の出現度
（1：少ない。2，3：普通。4，5：多い。）

月	J	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D	計
観察日数	9	9	10	9	9	9	7	6	8	10	10	9	105
種数	69	55	52	55	70	64	57	59	72	85	84	69	128

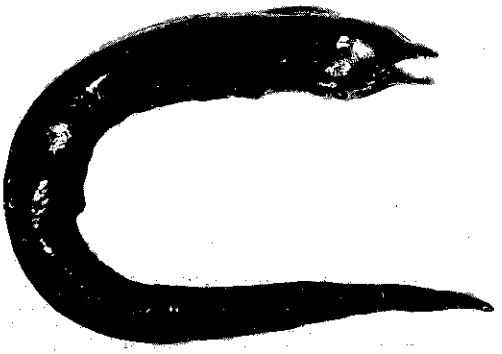
いそこじき -19-
本州初記録の魚と多量に捕獲されたマンボウについて

御前　洋

ヒダウツボ

***Enchelycore schismatorhynchus* Bleeker**

去る1997年10月6日、エビ刺し網で捕獲される魚種を調べに網干し場に出かけたところ、全長1m程の真っ黒なウツボが浜に放置されていた。本種は串本町田の崎沖に仕掛けた網に罹ったもので、細長く突き出た両顎がやや湾曲しているため、口を閉じても完全には閉まらず、左右の顎のほぼ中央に隙間が出来る事から、トラウツボと同じ仲間だと推察した。水族館に持ち帰って調べたところ、本種は上述の他に、前鼻孔は上顎先端部にラッパ状に開いている、後鼻孔は眼の前方上に開く、また背鰭基部は鰓孔よりも前方にある等の、特徴があることからヒダウツボと同定された。なお、益田ほか（1984）によると、「本種の体色は灰褐色で垂直鰭は白く縁取られる」となっているが、死亡後数時間経過した本個体では、体前半部が褐色で後半部は黒褐色、また垂直鰭もほぼ黒色で白色の縁取りは認められなかった。本種の分布域は琉球列島、西部太平洋、サモアとなっているところから、本州での記録はないものと思われる。本種の全長は924mmと大きかったことから、数年継続している黒潮の接岸により来遊したものが越冬し、成育したものと思われる。



串本町田の崎沖で捕獲されたヒダウツボ

私が定置網やエビ刺し網を見回り始めて25年余りになるが、本年1月初旬から2月下旬にかけて、これまでに例を見ないほど多量のマンボウが定置網で捕獲されたので、それについて紹介する。

串本におけるマンボウは、全長40～120ｃｍのものが、毎年冬から春にかけて定置網で捕獲される。ところが今年は断続的ではあるが、全長80～100ｃｍとほぼ同じ大きさのものが1日に数個体から10数個体、多い日には500～600個体が捕獲され、市場に水揚げされた。当初は競りにかけられたが、3日目には消費先がなくなったのか買い手がなく、その後は殆ど持ち込まれず、網を揚げた時点で海に放流された。例年マンボウが良く捕れる宇久井や尾鷲の定置網でも、昨年11月から本年2月にかけて串本とほぼ同じ大きさのマンボウが、多いときには数100個体捕獲されたという。地元や尾鷲の漁師の話では、過去にこのように多くのマンボウが捕獲されたという記録はないそうである。

マンボウは大きさ3～4m、重さ1トン余りにもなる魚で、太平洋、大西洋の暖海に広く分布するが、日本近海の定置網などに入網するのはせいぜい2m位までである。産卵数が数億と言われるマンボウ、多量の稚魚が大型魚類の胃中から発見されたという話（本誌Vol.4.No.8）はあるものの、生態については殆ど解っていない。

3月に入って九州方面でも同サイズのものが捕獲されたという情報があった。各地の捕獲情報を収集し、生態解明の糸口になるよう努力したい。



市場に水揚げされたマンボウ

「串本の海」水槽から得られたカイメン類

小寺 昌彦

昨年12月10日、水量約108t、80種460個体の魚類と23種70点のイシサンゴ類を中心とした無脊椎動物を展示して「串本の海」を再現した水槽で、イシサンゴの入れ替えがあった。その時運び出した2個の死滅したイシサンゴ群体より多くのカイメン類を得ることができたのでここに紹介する。

このイシサンゴは両群体ともクシハダミドリイシで、約2年前に地先から運び込まれた直径60cmくらいのものと約10年前の直径40cmくらいのものであった。死滅してから相当時間が経過していたので、イシサンゴ群体の表面の多くは無節サンゴモで覆われていた。カイメン類はイシサンゴ群体の裏側に多く付着しており、これらの大部分を削り落として固定した後、形態・構造、そして骨片により同定を行った。

得られたカイメン類は表の通り石灰海綿類9種と普通海綿類8種の合わせて17種であった。量が多かったのはNo. 15,16のカワナシカイメン属の一種2, 3の2種で、それ以外の15種はそれぞれ小指の先に乗ってしまうほどの量しか得られなかった。両方のイシサンゴから得られたのはNo. 5, 6, 15の3種のみで、他の14種は片方ずつからしか得られなかった。量が多く、両方のイシサンゴ群体から得られたNo. 15のカワナシカイメン属の一種2は、薄い褐色でイシサンゴを覆うように広がり、そこから細い枝や突起を出していた。

当館の水槽は開放式か半開放式で、海岸から150mほど離れた取水口より自然海水を注水している。そのため、今回得られたカイメン類の多くは自然海水によって運ばれた幼生が水槽内で成長したものか、運び込んだイシサンゴなどの生物やその基質に付着していたものが成長、増殖したものと思われる。2個のイシサンゴ群体では付着していたカイメン類の共通種が少なかったが、これは水槽内でも場所により環境に違いがあって付着種に違いが出たと考えるのが普通であろう。

「串本の海」という一つの水槽で、しかも2個のイシサンゴ群体の裏から得られたカイメン類が17種もあったが、他の水槽でもちょっと目を凝らすと多くのカイメン類が生息しているのがわかる。その中には今回の17種と外見が異なるものも多い。

今後は各水槽内に棲息するカイメン類を調べるとともに、地先での観察結果を比較検討し、出現種や優占種の相違などについて調べてみたいと考えている。

表. 得られたカイメン類

No.	種　名	新	旧
1.	*Clathrina clathrus* クラトリナカイメン	○	
2.	Clathridae 1 クラトリナ科の一種 1		○
3.	Clathridae 2 クラトリナ科の一種 2	○	
4.	*Leucosolenia* sp. カゴアミカイメン属の一種	○	
5.	*Sycon calcarvis* ケヅメケツボカイメン	○	○
6.	*Sycon misakiensis* ミサキケツボカイメン	○	○
7.	*Sycon okadai* オカダケツボカイメン	○	
8.	*Sycon* sp. 1 ケツボカイメン属の一種 1		○
9.	*Sycon* sp. 2 ケツボカイメン属の一種 2	○	
10.	Spirastrellidae パンカイメン科の一種	○	
11.	*Chondrilla australiensis* ゴウシュウナンコツカイメン	○	
12.	*Halichondria japonica* ダイダイイソカイメン	○	
13.	*Halichondria* sp. イソカイメン属の一種	○	
14.	*Haliclona* sp. 1 カワナシカイメン属の一種 1		○
15.	*Haliclona* sp. 2 カワナシカイメン属の一種 2	○	○
16.	*Haliclona* sp. 3 カワナシカイメン属の一種 3		○
17.	Callyspongiidae ザラカイメン科の一種	○	

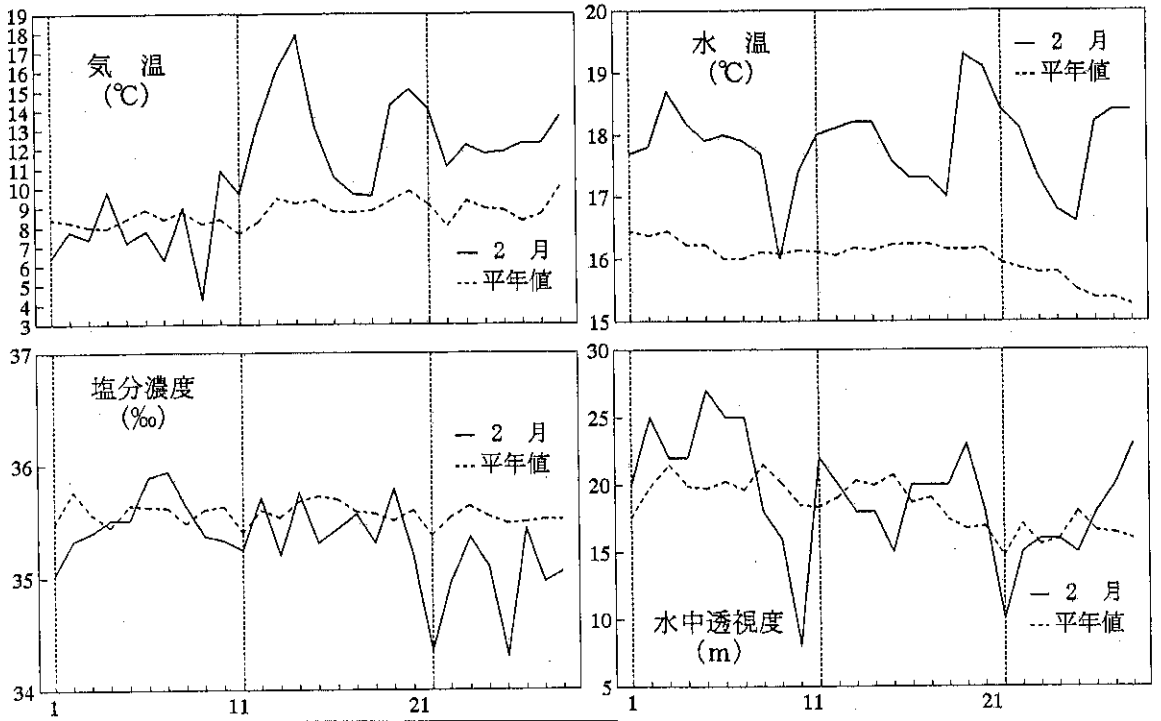
注）新：2年前に搬入したイシサンゴ
　　旧：10年前に搬入したイシサンゴ

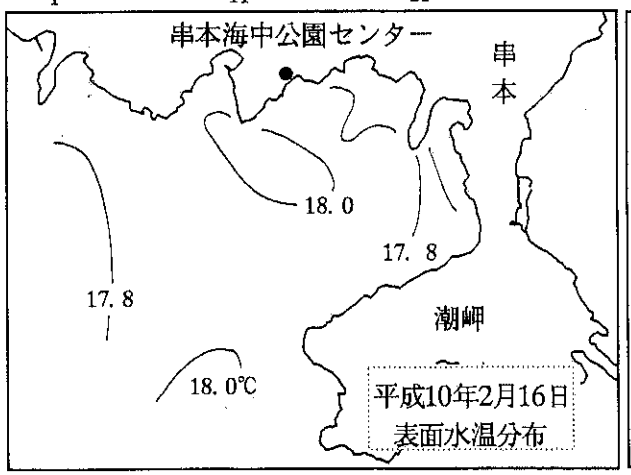
錆浦の海から

宇井晋介

2月 平均値	気温　10.9 ℃	水温　17.8 ℃	塩分　35.3 ‰
	透視度 19.1 *m*	月間降水量　174.5 *mm*	

バブル景気がはじけ、大型銀行や証券会社などがばたばた倒れる中、世の中の様々なところにしわ寄せがきている。身の回りでは、各種環境調査への影響が大きい。バブルに煽られた様々な建設ラッシュに世の中が浮かれていた頃は、それに伴ういわゆるアセスメント調査が花盛りで、全国津津浦々でありとあらゆる調査が行われていた。建設ブームの功罪はあえてここでは触れないが、それによって得られた知見も決して少なくないことだろう。折からの環境保護機運の盛り上がりに呼応して、今では開発と調査はワンセットのもの考えられるようになった。しかし、不景気となれば真っ先に削られるのはこうした調査費のようで、調査会社の知人に聞くと、調査項目の削減などが目立って増えてきたという。しかしせっかく定着してきた仕組みを、ここで崩してはなるまい。官公庁も肝心なところにお金を使って欲しいものである。





マリンパビリオン Vol. 27, No.3 通巻 315号
1部 50円（年間購読料 1,500円）
印刷日　平成 10 年 3 月 20 日
発行日　平成 10 年 3 月 25 日
口座番号：00990-9-41351
口座名称：串本海中公園マリンパビリオン
編集兼発行人
〒649-3514 和歌山県西牟婁郡串本町有田1157
（株）串本海中公園センター
電話　07356（2）4875
FAX　07356（2）7170
印刷所
坂本印刷
串本町串本　Tel: 07356（2）0895